

遠賀川における平成15年発生災害の復旧について

国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所

あだち たつお
副所長 足立 辰夫

1. 災害復旧の計画策定に向けての取り組み

(1) 出水概要と事業採択

平成15年7月19日、遠賀川の中・上流域において発生した、局地的集中豪雨により、飯塚市において、支川穂波川で計画高水位を超えるなどし、堤防決壊にはいたらなかったものの浸水戸数4,000戸以上、うち床上浸水が2,000戸を超えるという甚大な被害が発生しました。

この浸水被害を受けたことにより、平成16年度より、飯塚・穂波地区床上浸水対策特別緊急事業（以下「床対事業」と言う）として、総事業費140億円で実施することが採択されました。

(2) 事業概要

床対事業の目的は3点です。

- ① 穂波川では、計画高水位を超えて堤防が危険な状況であったため、当該洪水規模に対して、計画高水位以下で洪水を安全に流下させる。
- ② 飯塚市街地等の内水による浸水被害を軽減するため、排水樋管等から自然排水ができる限り可能となるよう、遠賀川および穂波川の水位を低減させる。
- ③ 流れを阻害する構造物（橋梁）の改築する。
以上の目的で遠賀川鯉田堰から穂波川の約10kmにわたる区間の河道掘削約70万m³、芳雄橋（遠賀川）、飯塚橋（穂波川）の橋梁架け替えを実施する。事業期間は、平成16年度より平成20年度までです。



写真 1 平成15年7月19日浸水被害状況



写真 2 改築される芳雄橋



図 2 芳雄橋のイメージ図

(3) 床対事業の進め方

河川利活用や、河川環境に配慮した整備を進めるために、住民も参加する協議会を設立し、持続

的な河道の維持、良好な河川環境の保持に配慮した飯塚・穂波地区の河道整備を進めています。

この事業の推進に当たっては、地域住民の水害に対する不安の払拭や、地域社会の再構築として、河川利活用や、良好な河川環境の保持への配慮など「地域の接合点としての川づくり」を目標として、地域住民の方々との意見交換会を実施しています。

また、緊急的な治水整備を進めるに当たり、技術的な課題に対して専門機関による技術的指導を受けるなど、発注者、施工業者、学識者との三位一体で問題解決を図っていきます。

2. 地域住民が中心となった「景観に関する意見交換会」

飯塚市の旧市街地と新市街地をつなぐ芳雄橋の架替工事や、市民の憩い場となっている芳雄橋周辺の中之島地区の河道整備については、飯塚市の新しいシンボルとして地元から愛され続ける

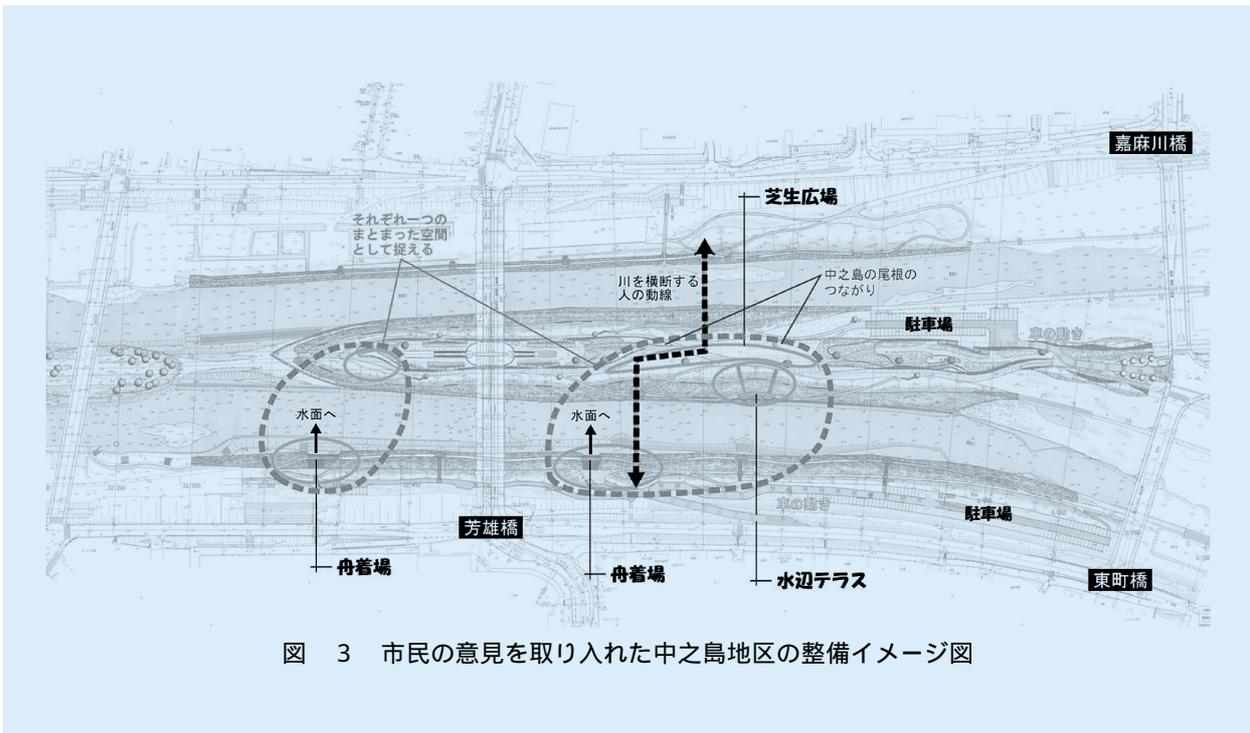


図 3 市民の意見を取り入れた中之島地区の整備イメージ図



写真 3 第1回意見交換会の様子

空間を創造し、平成15年7月19日出水のメモリアルとしていくために、地域の声を取り入れた整備を行う必要があると判断しました。

そのため、両市街地商店街等の水害からの復興にも配慮するために、飯塚市商店街の歴史を100年近く見守り続けた飯塚商工会議所に相談し、飯塚をこよなく愛し、飯塚復興を願う地元有識者を20名ほど選出していただき、平成16年度に『芳雄橋及び中之島の景観に関する意見交換会』を設立しました。

このメンバーと学識経験者等により地域住民の想いの詰まった川づくりプランについて、2年間に渡り計12回の意見交換会を行いました。

当初は、芳雄橋・中之島の景観についての議論がメインでしたが、回を重ねる中で、現地を実際に歩きながらの意見交換や他地区での事例の視察を重ねるうちに、メンバーの川づくりに対する想いも大きくなり、今後の川の利活用を視野に入れた意見が積極的に交わされるようになりました。

特に想いの強い芳雄橋と中之島地区整備については、全12回の意見交換会にて活発に議論され、設計の際の基本コンセプトということで、下記の事項が決定されました。

- ・まとまりとつながりのある空間デザイン
- ・人の居場所を創り出す工
- ・親水利用（水辺に近づく、水面利用）
- ・バリアフリー対応

3. ステップアップした「利活用に関する意見交換会」

床対事業期間の中間点となる平成18年度より、地域住民の意見等を取り入れた良好な河川空間として生まれ変わる飯塚・穂波地区の河川空間の維持管理を含めた利活用についての意見交換を実施するために、前年度の『芳雄橋および中之島の景観に関する意見交換会』の地域住民メン

バーに一部新規メンバーを加えた『芳雄橋および中之島の利活用に関する意見交換会』へとステップアップしました。

ステップアップ点として、飯塚商工会議所から独自の利活用・維持管理プラン案が提案されたことが挙げられます。この提案には、利活用や維持管理に関する具体的な作業計画や、それを進めていく上で確認しなければならないこと等がまとめられています。



写真 4 第8回意見交換会グループ討議の様子

このプラン案は、自分たちが平成17年度までに議論した川づくりプランが、平成18年度より本格的に工事着工し、目に見える形へと変わっていく過程を見ていく中で、今後は、自らが提案し整備された河川敷をいかに良好な状態で継続していくかという地域からの利活用・維持管理に関するプラン案です。

現在は、このプラン案を基に、国・県・地域（市・市民）が実施すべき維持管理および利活用計画を策定するために、意見交換会の下部機関として「維持管理部会」「利活用部会」の発足についての提案を受け、現在、飯塚市・商工会議所により実現に向けて準備をしています。

4. 工事实施における課題解決

新しい芳雄橋は、意見交換会で提案された新芳雄橋基本デザイン2案を市民にアンケート調査を実施し、「飯塚の街と旧芳雄橋の歴史を重視し、重厚感のある橋」を基本コンセプトとした基本デザインが決定され、平成20年12月初旬の開通を目指し鋭意施工中です。

工事に際しては、連携が重要なポイントであることから、「工事特色・問題点を協働で解決」すべく、発注者・学識者と施工業者が連携し委員会を立ち上げ、工事管理連絡会の上位組織として運営し、下部工工事および上部工工事において実施している。

その一つが、下部工工事において採用した、自然石を積んで造った型枠の中にコンクリートを流し込む「石積み型枠工法」であり、橋脚にこの工法を取り入れたのは、全国で初めてである。型枠がそのまま残ることで、コンクリートのひび割れの有無が外観から確認できないことから、コンクリートを確実に充てんするなど、施工時に入念な品質管理が求められた。

この施工上の課題に対して請負業者の知識を融合させたことで、統一した施工管理ができた等の感想が出るなど業者の反応も良好でした。

5. おわりに

近年、住民参加による川づくりは、各地で盛んに行われているところですが、飯塚地区の床対事業のような事例は、5年間という限られた期間の中での取り組みです。

この未曾有の洪水被害を被った飯塚の水害から復興・地域の再構築ならびに地域の活性化を目指すまちづくりと調和を図る必要のある、遠賀川・穂波川の河川整備では、設計の初期段階から地域住民の川への想いを聞き出し、計画的かつ徹底的に意見交換（情報提供含む）することで、地域住民と河川管理者との川に対する想いが共有でき、その中で地域住民の川に対するより多くのニーズをよりの確に反映させることができた実感しています。

河川整備が進む今後についても、平成15年7月19日出水の被害を風化させず、地域住民が積極的に川づくりへ参加できるような場の提供として、定期的に意見交換会を実施する予定です。

この定期的な意見交換会の開催により、地域の癒しと憩いの空間を創出され、川とふれあう機会が増えることが効果として期待でき、そこから川への関心が高まり、人々のつながり、裾野が広がり、まち全体が元気になる『いいづか・いいまち・いい川づくり』に貢献できればと考えています。

今回実施した地域住民との取り組みについては、今後の「川づくり」を円滑に進めていくには、設計完了後での地域住民への計画説明・施工承諾を得るだけでなく、普段から地域住民との関わりをもち、些細なことでも地域住民と意見を交わすことで、それを形へと変えていく努力をせば、自然と地域の視線が川へと向けられるようになると思います。今後とも、地域の安全の確保は無論のこと、市民と地元行政、県、国がさらに一致協力して、地元の活性化が図られるよ、「地域の接合点としての川づくり」を目指していきます。